

<調査トピック>

雇用は高水準も鈍化、製造業の求人数が7か月連続減少

－厚生労働省「一般職業紹介状況」より－

有効求人倍率は、ハローワークで受け付けされた有効求職者数に対する有効求人数の割合を示したもので、1倍を超えると求人が求職を上回っていることを示す。景気に一致して動き、足元の景気を表す重要な指標のひとつである。

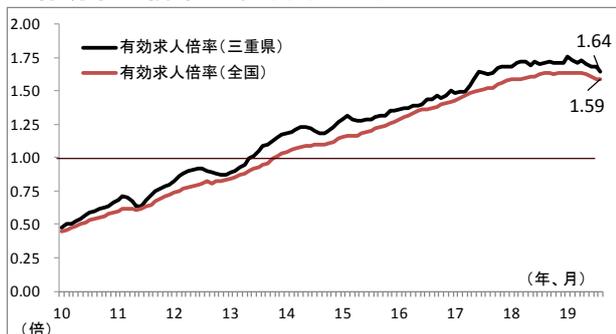
三重県の有効求人倍率（季節調整済、8月）は、75か月の長期にわたり1倍を超え、全国を上回る高い水準で推移している。しかしその内訳をみると、ここ最近、変調がうかがえる。2010年3月以来、9年にわたりほぼ前年を上回って推移してきた有効求人数（原数値、8月）が、6か月連続で前年を下回っている。水準としては高位にあるが、ピークアウトしている印象が否めない。

新規求人数（原数値）から産業別の傾向をみると、とくに製造業で減少が顕著である。製造業は7か月連続で減少し、うち汎用機械、生産用機械、電気機械、輸送用機械などで減少が続いている。

こうした傾向は、当社が7月に実施した「景況調査」結果からもみてとれる。人員が「不足」「やや不足」と回答した企業は、半年前調査の7割弱から6割弱に低下し、「適正」が上昇、とくに製造業でその傾向が強くみられた。

求人減少の要因としては、これまでの人手不足への対策として採用強化や賃上げを進めた結果、必要人員を確保できた、業務改善による生産性向上や省人化投資による効果が出てきたなどが考えられるが、製造業においては米中貿易摩擦が長引くなか生産減となっており、その影響も大きいと想定される。

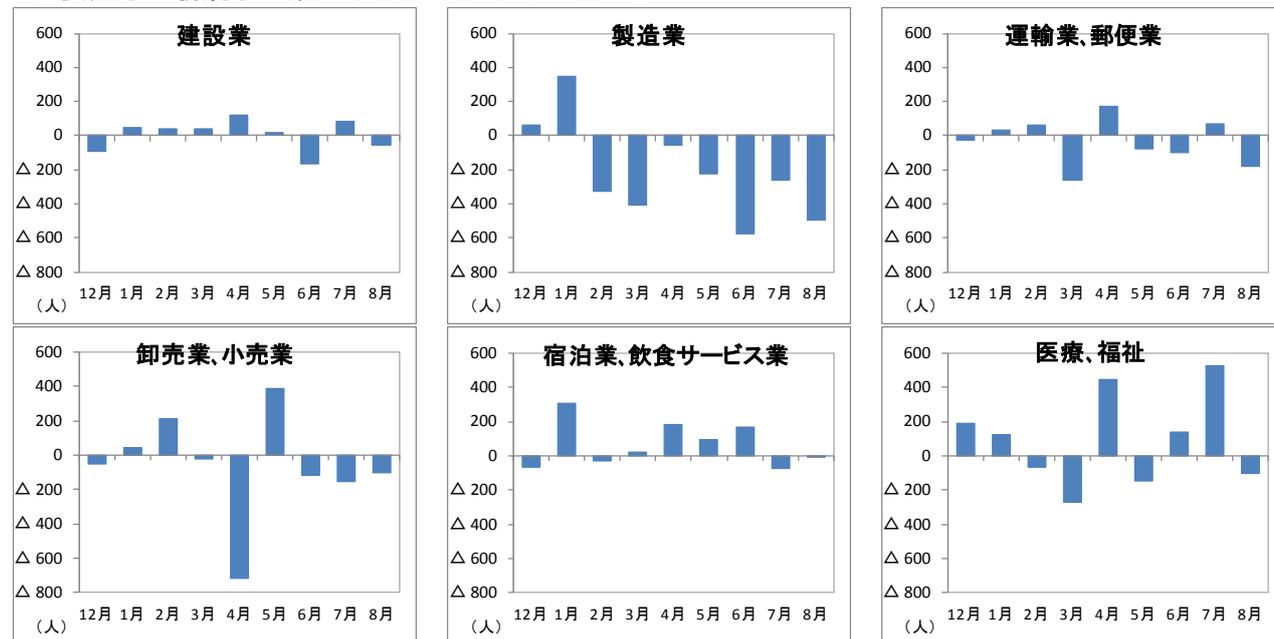
■有効求人倍率（季節調整済値）



■有効求人数・求職者数（原数値、前年比）



■主要産業の新規求人数（原数値、前年同月増減差）



※新規は、当月に新たに受け付けた数。有効は、当月の新規数に前月から繰り越された数を合計した数。

資料：厚生労働省三重労働局職業安定課「一般職業紹介状況」